

平成26年度 第5回当別町地域公共交通活性化協議会 議事録

日時：平成27年2月17日 10:00～11:30

場所：当別町役場 第二庁舎 2階 会議室

出席委員 17名、欠席委員 4名、オブザーバー 2名、随行者 1名

1 開会（司会：館田事務局長）

2 会長挨拶（増輪会長）

本日は、大変お忙しい中、平成26年度第5回の当協議会に出席いただき、ありがとうございます。我々地域公共交通を担当している者としましては、冬のこの時期は、非常に気を使っているところでございます。当別の場合は、特に吹雪があるので、定時運行につきましては、運行事業者の下段モータースと共に頑張ってきたところであります。今年は、例年になく利用者の皆様方からの苦情等も少なかったように感じます。天候にも恵まれた年にも思えます。これからも安定運行等に向けまして気を引き締めてやっていきたいと思っております。皆様のご協力を承りたく存じます。

本日の会議でございますが、26年度1月までの利用実績、特に昨年11～12月にかけて試験運行いたしました予約型（デマンド）バスの実績について、ご報告申し上げたいと思っております。議事の方では、事業計画案・予算案、太陽光発電を活用いたしました活性化事業について、ご審議いただきたいと思います。

3 報告

（1）当別町コミュニティバス平成26年度1月までの実績について

事務局（長谷川美しいまちづくり課長）

資料1に基づき説明。

まず、資料1をご覧ください。

平成26年度1月までの利用者実績ですが、総乗降者数114,486人となっています。12月までの実績では、例年を下回る数値でしたが、1月に例年以上の乗り込みがありました。理由としては、天候の悪化によってJRが止まってしまう事がありまして、その分バスの利用者・収入が増加しました。1ページ目の市街地循環線の欄の11～12月は、利用者0となっていますのは、予約型（デマンド）バスを試験運行するために廃止していたためです。

2ページ目の路線別の利用者グラフになりますが、市街地循環線は、過去4年間のなかでも最も悪い結果となっています。今年度の乗り込み状況は、非常に厳しいものになっています。次に西当別・あいの里線ですが、1月の乗り込み状況が良く、例年に対してプラスになっています。金沢線につきましても昨年度と同様に推移しています。青山線につきましては、昨年と同様な推移に見えますが、5～7月の落ち込み状況が非常に厳しい。3ページ目は、全体の乗り込み状況です。まず、月別乗降ですが、過去4年間の中で、今年度1月は、過去最高になっています。次に運行収入ですが、同様に1月が過去最高となっています。累積を見ましても利用者も収入も例年に大きく変わらない状況にあります。4ページは、過去4年間の運行収入の資料になります。平成25年度の収入と比較すると減少する傾向にみえますが、1月の収入増加により今年度も1,000千円を超える見込みとなっています。

質疑なし

提案どおり決定

(2) 予約型(デマンド)バスの実績報告について

事務局(長谷川美しいまちづくり課長)

資料2-1~2-3に基づいて説明。

まず、資料2-1についてですが、予約型(デマンド)バスの試験運行する際に住民に配布したチラシです。試験運行期間は、11月4日~12月30日で、その期間は、市街地循環線は休止しました。運行エリアは、市街地循環線が運行している行政区で区切らせていただきました。運行方法は、自宅から指定の施設、指定の施設から自宅、指定の施設から指定の施設の3パターンで行いました。運行時間は、平日のみで、7時から18時、1日8便を設定して運行しました。料金は、1回200円とし、応援券、回数券、1日乗車券等市街地循環線の料金体系と同じくしました。ご利用の流れと指定の施設は、3~4ページに記載しております。

次に、資料2-2になります。予約型(デマンド)バスの実績についてですが、結果を見ると思ったよりも利用者が伸びませんでした。まず、11月ですが、運行は、18日間ありまして、運行回数は、1日8便設定で、予約があった時だけ運行させるということで、71便運行しました。利用人数は、113名、現金収入は、3,800円分ありました。次に12月ですが、運行日は21日で、運行回数は100回、利用人数については、152人、11月よりは若干増加したので、周知が深まったと考えられます。

現金収入は、7,000円。2ヵ月間の実績としましては、トータルの運行日数39日、運行回数は、171便、利用者数が、265人となっていて、非常に低い結果となりました。4~10月までの実績と比較すると、市街地循環線は、531人となっています。しかし、1便あたりの利用者数で比較してみると、予約型(デマンド)バスは、1.55人となっています。市街地循環線の1便あたりの利用数は、1.05人となっています。1便当たりの利用者数は、向上しています。資料は準備していませんが、市街地循環線を2ヶ月運行すると1,024,000円、それに対して、予約型(デマンド)バスの運行経費は、847,000円となりました。差し引きすると約180,000円の削減効果が出ました。1年間にすると1,080,000円の削減となる可能性があるかと判断できます。続きまして、2ページになりますが、各便数別利用者数をグラフにまとめてみました。2・3・7便の利用が上位となり、8便の乗込みが非常に厳しい結果となりました。8便の時間帯(17:30~18:30)は、市街地に居住している人は、バスを利用しないことがわかりました。

3ページ目は、出発地点別のグラフになっておりまして、自宅が圧倒的に多い。固定客になりますが、シルバー人材センターや森林管理署のバス停から乗る人がいて、上位になっています。

4ページ目は、目的地別のグラフになっています。シルバー人材センター、森林管理署は先程も説明しましたが、固定客でありますのが、当別駅まで利用する方が多くいました。9月の会議にてご指摘を頂きました金融機関を指定の施設に追加するということでしたが、ご利用者がそれぞれいましたので、設定して良かったと思います。

事務局として総じて判断したところ、運行事業者としてトラブルなく終えれたことが確認できました。また、市街地循環線の廃止に対する苦情も電話等では、なかったということをご報告とさせていただきます。先程申し上げた経費節減効果もございますので、昨今の市街地循環線の落ち込み具

合を考えますと、新年度のしかるべき時期にデマンドバスに切り替えて本格運行を考えていかなければならないと思っています。

資料 2-3 には、予約型（デマンド）バス試験運行のアンケート調査の実施結果です。

このアンケートは、予約型（デマンド）バスの運行エリア内にお住まいの人を対象に実施しました。453 名の方からご回答いただきました。まず、設問 1 の予約型（デマンド）バスを利用しましたかとの質問については、97%の人が利用しなかったと回答している。利用しなかった人の意見・感想だという前提で確認させていただきます。年齢層については、40～70代が多く、84%を占めています。運転免許の保有状況については、回答者の約6割が運転免許証を保有している。車の所有については、家族共用車も含めて8割の方が保有している。その方たちが市街地循環線を利用したことがありますかとの問いには、6割の方が全く利用したことがないと回答されています。設問 3 になりますが、予約型（デマンド）バスの認知については、約8割の方が知っていましたとの回答をいただきました。周知については、出来ていたと思われそうです。利用しない理由については、自分で運転するからが圧倒的に多かったです。5 ページになりますが、循環線と予約型バスで利用しやすい方を確認したところ、3割の方が循環線、1.5割が予約型を推しています。循環線を選択した人は、予約が面倒という意見が多く、予約というものに抵抗感がかなり見られた。予約型は、利便性が良いとの意見が多かったです。

9 ページでは、本格運行後の利用意向を確認したところ利用しようと思う・サービスが改善されたら移動が困難になったらという回答を含めると約7割の方が利用してくれると読み取れます。運行方法を変更することについては、賛成が20%・反対が12%となり若干ながら賛成が多かったです。回答を見ましても地域住民の方が公共交通への利用意識が低いことが読み取れます。この協議会での大きな課題と考えられます。事務局としては、今後周知を図ることを前提に考えますと予約型（デマンド）バスは延びしろがあると思われそうです。本格運行を実施し、周知の徹底、予約にも慣れてもらう等、可能性を見出せると思っております。後ほど、議事でもありますが、平成27年度中に予約型（デマンド）バスの導入を進めてまいりたく思います。

質問は以下のとおり

樋口副会長

予約型（デマンド）バスの本格運行とあるが、試験運行中の予約型（デマンド）バスにより地元のタクシー事業者への影響はどうだったのか。

事務局

山内建材工業により昨年9月から当別ハイヤーという名称でタクシー事業を開業した。試験運行する際にも何度も協議してまいりました。試験運行後の結果報告もしておりまして、影響の確認もしましたが、今年については、殆ど影響がなかったと回答いただきました。当面の課題として、タクシー事業者との共存も必須と考えている。非公式ではありますが、今後タクシー事業者によるデマンド交通も視野に入れた投げかけをしている。

野村委員

アンケート調査の結果の見方なんですけど、97%の利用されていない方の意見が大きく影響あるように思える。実際に利用された方の意見だけが抽出されるものなのか。実際に利用された人へのアンケートが取られているのか。そもそもアンケート結果の利用方法が全くわからない。

事務局

冒頭で申し上げましたとおり非常に利用されていなかった意見が多かった。ご指摘のとおりこの結果からどう読み取ればいいのかと言われると厳しい。大変申し訳ないが、アンケートの集計は、時間がない中で、委託業者に出せるところまでで、お願いした分になります。利用者の分の抽出も実際にアンケート回収している。

野村委員

利用者が3%だとそのアンケート調査の結果にどれ程の信頼性・影響があるのか。

事務局

利用者集計分については、大変申し訳ないが間に合わなかった。次回の協議会もしくは、集計次第各委員宛に送付しますので、ご理解いただきたい。

提案のとおり承認

(3) 平成26年度当協議会予算の執行状況について

事務局(長谷川美しいまちづくり課長)

資料3に基づいて説明。

議事にあります。新年度予算の審議もありまして、それに向けて現在の執行状況の確認でございます。決算見込みとして、収入の部、負担金・補助金・繰越金全て当初予算どおりを見込んでいます。諸収入の雑入ですが、平成26年度予算では993,027円計上していましたが、決算見込みとしましては、279,514円で713,513円の減と見込んでいます。要因としては、広告収入の単体広告が1社分減となっていて、240,000円の減で、276,000円の見込み。次に繰入金になりますが、後ほど支出の部分でも係りがあるんですけども繰越金が出る見込みがあり、当初475,000円を積立金から繰入を予定していましたが、繰入しないで決算をしたく思います。収入決算見込額45,527,487円、差額として713,513円の減となります。

次に支出について、総務費は、当初予算どおりを見込んでいます。事業費についてですが、運行事業費は当初予算どおりに見ていますが、運行事業者から運行実績に基づいた精算をし、その請求額がきます。更に今年度は、市街地循環線2ヶ月分運休させた分減額となります。次に研究調査費についてですが、835,855円の164,145円減となっています。広報広聴費については、当初予算どおりとなっています。予備費につきましては、執行見込みなしとなっています。支出決算見込額44,268,855円、差額1,972,145円の減となっています。収入合計から支出合計を差し引きして、次年度繰越予定額1,258,632円となっています。次に積立金の特別会計につきましてもご説明しますが、収入の決算見込みの諸収入で4,327円利子収入がありましたので、16,299,327円となります。支出については、繰出金が0円になったため、次年度繰越予定額16,299,327円となっています。

質疑なし

提案どおり決定

4 議事

(1) 平成27年度協議会事業計画(案)について

事務局(長谷川美しいまちづくり課長)

資料4に基づいて説明。

例年この2月の会議で新年度の事業計画を決めさせていただいております。この計画は、平成27年4月1日から平成28年3月31日までの協議会年度の計画案になります。今回御計りしますのは、予約型(デマンド)バスを本格運行する前提で作成しています。予約型(デマンド)バスは、バス年度に合わせて10月1日からの本格運行を考えている。では、計画の説明に入りますが、1ページ目は、平成27年4月1日から9月30日までの運行形態分を記載しております。その期間は、従前どおり市街地循環線がある形のこれまでどおりの運行系統・運行回数となります。2ページ目は、平成27年10月1日から平成28年3月31日までのもので、市街地予約型(デマンド)線を記載しておりますが、いわゆる予約型(デマンド)バス運行のバス路線というものを市街地循環線に変えて導入したいという計画とさせていただいております。試験運行と運行内容を若干変更しておりますので、ご説明します。運行エリアにつきまして2箇所増やさせていただきました。増えた部分は、六軒町、若葉の一部(パーソナルタウン)となっている。理由としましては、町内の中学校から登校等で利用したい旨連絡がありました。運行時間については、調整する必要がありますが、利用希望があるとの声を頂いておりますので、本町地区の市街地エリアは網羅しておきたい、追加しました。その他のあいの里金沢線や青山線等の運行系統につきましては、変更ありません。4ページ目は、9月30日までの市街地循環線の路線図を掲載しております。5ページ目は、あいの里金沢線や青山線等の路線図を掲載しています。6ページ目は、10月1日からの市街地予約型(デマンド)線の運行エリアを掲載しています。その後は、夏ダイヤ・冬ダイヤをそれぞれ掲載していますが昨年と殆ど変更しておりませんので、割愛させていただきます。13ページについては、市街地予約型線の運行形態について、記載しております。ほぼ試験運行の際と一緒にございますが、指定の施設の件数や、運行時間の調整など次の会議までに詰めていきたい。6月の会議で、最終案として運行計画の変更をしたく考えています。

(2) 平成27年度協議会予算(案)について

次に資料5になります。まず収入ですが、負担金につきましては、平成26年度と同額になります。補助金につきましては、昨年から49,000円増の6,904,000円となっている地域内フィーダー系統補助金。繰越金については、先程報告(3)で承認いただきました予定額1,258,632円となっていて、2,334,341円減となっています。諸収入については、まず繰入金1,142,000円積立金特別会計から繰入しまして計上させていただきたく思います。咲く年度比667,000円の増となっています。この予算は、収支バランスの関係で計上していますが、次の6月の会議の際に決算が確定し、繰越額が増加すれば繰入金が減少しますので、補正をかけさせていただきます。広告収入については、平成26年度実績に基づいて、240,000円減の276,000円としている。雑収入は、1,341円増の3,368円となっている。収入合計は、昨年度比1,857,000円減の44,384,000円となっています。次に支出について、総務費の会議費は、0円、事務局費は、130,000円減の110,000円とし、事業費の運行事業費は、現時点での事業者からの見積りになります。昨年度比781,000円増の43,574,000円となっている。調査研究費は、27年度は0円の1,000,000円減となっている。広報公聴費は、200,000円増の600,000円となっている。増加分は、予約型(デマンド)バスのチラシ作成分です。

予備費については、最低限の計上と精査させていただきまして、1,708,000 円減の 100,000 円としています。支出合計は、昨年度比 1,857,000 円減の 44,384,000 円となっている。また、積立金特別会計予算ですが、まず収入で、繰越金 16,299,327 円ございまして、雑収入として 4,500 円計上し、収入合計は、16,303,827 円です。支出につきましては、諸収入の繰入金にありましたとおり特別会計からの繰出金は、1,142,000 円です。収入から支出を差し引きまして、27 年度末予定残高は、15,161,827 円となります。

質問は以下のとおり

菊地委員

デマンドバスは、当別町全域をエリアに運行は出来ないのか。市街地から離れている地域の人の利用が多くなると考えている。

事務局

町内で運行しているバス路線の内市街地循環線の乗り込み状況が悪いため、代替案としてデマンドバスの導入を進めた経緯がある。あいの里金沢線については、非常に乗込みが良いので、定時定路線が合う地区もある。エリアを町全域にしますと現行の路線についての兼ね合いもありますし、タクシー事業者とも協議が必要になる。ただし、いずれは、路線バスの維持が難しくなることも想定されるので、ご質問頂いた内容については、頭にいれておかなければならない。事務局としましては、東裏・蕨岱地区のような交通空白地域に対する導入も考えていかなければならない。今回は、タクシー事業者との協議で、試験運行時での影響はないとしているが、エリアを拡大することで、損害を与えると厳しいので、その都度協議が必要になる。

三浦委員

事業者会議で確認していなかったんですが、予算の運行事業費の中で、デマンドバスの運行経費は含んでいるのか。

事務局

今回計上してる予算は、現行の市街地循環線の金額で見積もっている。予約型に切り替えても先程も説明しましたがその予算の範囲で収まると考えています。予定金額よりも下がると見込んでいる。

横関委員

平成 25 年度の事業費 35,000,000 円に対して、平成 26 年度は、42,793,000 円となっているが、あがっている理由は。

事務局

国の制度変更によるもので、もともと地域内フィーダー系統補助金は、運行事業者が申請をして運行事業者が直接受け取っていたが、申請者を協議会になったため、増加となっている。

提案どおり決定

(3) 太陽光発電を活用した地域公共交通活性化事業について

事務局（長谷川美しいまちづくり課長）

資料6に基づいて説明。

平成26年度第2回の協議会におきまして、既に概要を説明しておりましたが、北海道の補助金を活用して太陽光発電施設を設置させていただいて、固定価格買取制度により売電し、町が負担するコミュニティバスの負担金の一部に充てるものです。そのために当別町と下段モータースで共同体を立ち上げました。次に建設費ですが、北海道・当別町からそれぞれ12,500,000円補助しております。設置場所は、町有地でありますゆとりっち稲穂に建設しました。2ページ目は、売電収益の流れになります。当別町が負担するコミュニティバスの経費の一部は、精算後戻しいれるという形になる。

図は、売電収益が1,100,000円あった場合のもです。まず当別町がバスの協議会に12,000,000円負担金を支出します。次に、ene・BUSコンソーシアムが北電に電気を売電し、1,776,000円の売電収入を得ます。年間ランニングコスト660,000円を差し引いた1,100,000円が売電収益となります。その売電収益は、そのまま下段モータースへ支出します。下段モータースは、総運行経費の中から運行収入や補助金関係、売電収益を差し引いて当協議会に委託費の請求をします。協議会は、請求のあった売電収益を差し引いた分の委託料を支払う。差し引かれた分は、協議会から町に戻入する形になる。会計内容については、協議会の監査の方にしっかり確認してもらう。3ページ目は、1,100,000円の根拠を記載しています。20年間で想定される売電収益は、22,014,000円であり、それを20年間で割り、1年当たり1,100,000円と算出しました。実際には、その年の売電収益に基づいた売電収益を戻しいれていく形になる。当面は、当別町が支出した分の金額を回収できるまでは、この体制でいき、その後は、また協議させていただきたい。4ページは、年間ランニングコストはいくらかかるのかということで、打ち分けを記載しております。発電は、今月23日から開始し、4月から毎月収入が得られる仕組みになっている。

質疑は以下のとおり

汐川委員

今の説明でいきますと、戻入は、予算上支出ということによろしいか。

事務局

ご指摘のとおり運行事業者からは、現行の運行事業から売電収益を引いた分が請求額になりますので、その中から当別町に戻入する形になる。

汐川委員

運行経費が下がれば国の補助金も下がることになるのか

事務局

地域内フィーダー系統補助金は、赤字額の補助となっている。本来であれば、市街地循環線と青山線の2路線で約13,000,000円かかっていて、補助限度額を超えた赤字となっているため、減額はないと考えている。

菊地委員

この事業は、クリーン・エネルギーの部類に入ると思うが、売電収益以外に補助金等収益になるものはないのか。例えばJ-VER制度等に活用できないのか

事務局

J-VER 制度は、CO2 の排出量等のクレジット化をする際に莫大な費用がかかる。以前は、補助金があったので、実施していたが、単独では赤字になってしまう。

三浦委員

事業者会議でも確認しましたが、売電収益の数字は、毎年額に変更があると思うが、決算書等に記載していただけるようお願いします。

提案どおり決定

5 その他

(1) 今後のスケジュールについて

事務局（長谷川美しいまちづくり課長）

資料 7 に基づいて説明。

4 月には事業者協定、運行契約を実施します。6 月には、平成 26 年度の決算報告、平成 27 年度予算補正、運行事業計画の変更、平成 28 年度フィーダー計画の策定。9 月には、ダイヤ改正等、10 月に向けての最終確認を実施予定です。

会長

以上持ちまして協議会を終了させていただきます。

本日は、ありがとうございました。

7 閉会（増輪会長）